

20005

短時間心臓MRIの有用性 ～大動脈弁閉鎖不全症（AR）を中心に～

【背景】心臓MRIは多くの情報を得ようとする検査時間が長くなってしまふ。目的に合わせた検査を行うことで、時間の短縮ができ、有益なものになる。当院ではAR症例に対し、短時間検査を行っており、その有用性について報告する。【目的および方法】AR症例における短時間心臓MRIの有用性を探ることを目的に1.CINE MRIにて定量的評価の可能性を探る（Vena Contracta, LVDdおよびLVDsの計測）2.視覚評価にて検査の有用性を探る（循環器科医師による検査画像のスコア評価）【結果】1.Vena Contracta : $r=0.71$, LVDd : $r=0.84$, LVDs : $r=0.73$ とUSとの強い相関を示した。2.MRIは形態評価（MRI : 4.4, US : 2.2）、動態評価（MRI : 3.7, US : 2.2）、大動脈（MRI : 3.7, US : 2.2）と全ての評価項目で高いスコアを示した。【考察】CINE MRIのみでも各種計測が可能である事、臨床画像での評価も高いスコアを示した事から、短時間での心臓MRIの有用性を示す事ができたと考える。【結語】当院のAR症例を対象とする心臓MRIはCINEを中心とし、検査時間は30分程度と短い。そのうえ、診療に有用な情報を十分に提供できる。しかし、MRIは限られた検査枠内で多科・多種の検査を行うため、心臓に特化した検査のみを行うことは困難である。肥満等、超音波検査が苦手とする検査領域において利用目的を選別する事ができれば、心臓MRIはより有益なものになると考える。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号